



UNIC Tokyo Dateline UN

September 2002 Vol.34

国際連合広報センター

ヨハネスブルク サミットを ふり返って

南アフリカ・ヨハネスブルクで開催された「持続可能な開発に関する世界サミット (The World Summit for Sustainable Development = WSSD) 8月26日-9月4日」に参加した国連環境計画 (UNEP) 親善大使で歌手の加藤登紀子さんが、同サミットをふり返り、国連広報センターにメッセージを寄せてくださいました。



何よりサミット会場で大活躍した南アフリカのボランティアの若者たちの笑顔が素敵でした。彼らの歩くステップがまるでダンスのようで、絶えずどこかから聞こえるアフリカ音楽の中での WSSD のワクワク感が心に残りました。

NGO 関係の人が集まったナズレック博覧会場でも、各地から色とりどりの服装で参加したアフリカ女性のパワーがすごかったのが印象的でした。

南アフリカ共和国の女性大臣であるディディザ農業土地大臣も参加した女性会議で、あるアフリカ女性がこう発言していました。

「私たちをプワーピープル (貧しい人々) と呼ぶのはやめて下さい。私たちは、お金がなくても決してプワーじゃない。大切な家族、山や畑や川がある限り、リッチ (豊か) です。美しい服や音楽だってある。水を汲むことも、畑を耕すことも、子供を育てることも、ずっと女の仕事でした。なのに、これからのことを話し合うテーブルに女が参加していないのはなぜ? 私たちが守ってきた水や畑や家族をお金で奪わないで下さい!」

「貧困」「女性」「教育」という三本柱を合言葉に、さまざまな経済支援が話し合われたサミットでしたが、「貧困」を撲滅するために、生活の価値にお金という尺度を持ち込む結果となったり、女性を解放するとはいえ、水

や畑をインフラによって奪い取られることになったり、教育によって文化の多様性が失われることになるなど、そんな危険性もあるのだな、ということがよく分かりました。

人々がお互いの歴史や文化を大切に認め合うこと、それをすべての基本にしなければならないと思います。その意味で、歌手としての私の役割はやはり人々の中に生きている音楽の素晴らしさを伝えることでしょうか。

2人の日本人ミュージシャンと3人の南アフリカのミュージシャンとの共演で実現したサミットでのコンサート! とても楽しく、たくさんの方の人々に聞いて頂けたことが何より嬉しかったです。

美しい未来のために歌い続けたい! そう思います。

INSIDE

第57回国連総会におけるアナン国連事務総長演説 (全文)	2-4
9.11 同時多発テロ1周年に寄せて	5
ヤン・カバン第57回国連総会議長略歴	6
国連にスイス連邦の旗を掲げるにあたって	6
2002年国連デー記念シンポジウム	7
国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所開設	7

<http://www.unic.or.jp/>

コフィー・アナン国連事務総長

第57回国連総会における演説（全文）

ニューヨーク、2002年9月12日

“Even the most powerful countries know that they need to work with others, in multilateral institutions, to achieve their aims.”

昨日の1周年に思いを致すことなく今日という日を迎えることはできません。2001年9月11日に私たちが残虐な犯罪行為を突きつけられてから1年がたちました。

あの日のテロリストの攻撃は単独の出来事ではありませんでした。それは世界を揺るがす災厄の極端な例でした。そうした災厄には、広範にわたる人々が協力して、継続的に、全世界一丸となって立ち向かうことが必要です。

広範にわたる人々が協力して。なぜなら、テロリズムはすべての国家が結束してはじめて打ち破ることができるからです。

持続的に。なぜなら、テロリズムに対する戦いは一夜にして簡単に決着がつくというようなものではないからです。忍耐と粘り強さが必要です。

そして、全世界一丸となって。なぜなら、テロリズムは広く世界に見られる複雑な現象であり、多くの根深い原因とそれを駆り立てるさまざまな要因とがあるからです。

そのような対テロ行動を成功させるには、**多国間組織**を全面的に利用するしかないとは私は信じています。



第57回国連総会が2002年9月10日に開幕した。総会議場の演壇に並ぶ【左から】アナン国連事務総長、ヤン・カバン第57回総会議長、陳健 総会・会議サービス局担当事務次長

私はいまここに**多国間協調主義者**としています。先例や原則の面からいっても、**国連憲章**から考えても、そして私の**義務**からも。

また、**国内の法の規則**を遵守しているすべての政府は、**海外の法の規則**も遵守しなければならないと私は考えます。国際法を擁護し国際秩序を維持するのは、すべての国にとって、明白な**責任**であるとともに、明白な**利益**でもあるのです。

国連の祖である1945年の政治家た

ちは、2回の世界大戦と大恐慌の苦い経験からそのことを学びました。

彼らは、国際的な安全はゼロサムゲームではないことを認識しました。平和や安全、自由は無限です。土地や石油、金のように有限のものは、どこかの国が手に入ればどこかの国が失うこととなります。しかし、平和や安全、自由はある国が多くを手に入れば入れるほど、近隣の国々もいっそう多くを手に入れる可能性が高くなるのです。

また彼らは、共に主権を行使しようと合意することにより、個別に行動しては克服できない問題に立ち向かえるのではないのでしょうか。

そうした教訓が1945年に明白だったのならば、グローバリゼーションの時代である今、より一層明白であって当然ではないのでしょうか。

私たちが取り組むべきほとんどすべての課題どれをとっても、各国が独自に、またはどこか1カ国だけで何とかできると本気で主張する人はいないでしょう。超大国といわれるような国々でさえ、そうした目標を達成するためには**多国間の組織**において他国と協力する必要があることを知っています。

多国間の行動によってのみ、開かれた市場からすべての人が利益と機会を享受できるようにすることが可能です。

多国間の行動によってのみ、開発途上国の人々が貧困の惨めさ、そして病気の苦しきから逃れるチャンスを手にすることが可能です。

ましてやテロリズムの防止には多国間の行動が欠かせません。各国は、テロリスト集団や彼らをかきまい支援する国に反撃することによって、自国を守ることができるかもしれません。しかし、テロリストにチャンスを与えないための現実的な希望を生み出すには、すべての国が体系的な不断の情報交換をしつつ、歩調のそろった警戒と協力をするしかないのです。

こうした問題に関して、多国間の協調という道を歩むのか、それともそれを拒否するのかという選択は、一国にとって — 大国であろうと小国であろうと — 政治的な都合というような単純な事柄であってはなりません。それは直接的な影響をはるかに超えた結果を伴うのです。

世界の国々は、国際法を進展させ、尊重し、必要に応じてそれを施行しながら多国間組織において協力し合うとき、相互の信頼を醸成し、他の問題についてもより効果的な協力を発展させることとなります。

ある国が多国間組織を利用し、それによって共通の価値を尊重し、そうした価値に付随する義務と制約を受け入れるようになればなるほど、他の国はその国をいっそう信頼し尊敬するようになります。そうすれば、その国は本当のリーダーシップを発揮する機会が増えるのです。

そして、さまざまな多国間組織の中で、国連というこの世界的な組織は特別な位置づけにあります。

攻撃を受けた際にはいかなる国も、国連憲章第51条に基づく自衛権を持っています。しかし、自衛を超えて、ある国が国際的な平和と安全に対しより広範な脅威となる武力を用いると決めたとき、国連によって合法性が与えられない限り、その行動が合法性を持つことはありません。

国連加盟諸国は、そのような合法性、そして国際的な法の規則に根本的な重要性を付与しています。加盟諸国は、12年前のクウェート解放の際に明らかになったように、安全保障理事会の権限に基づいて行動することはいとわなないけれども、安保理の権限に基づくことなく行動する意志はないということを明らかにしています。

実効性がある国際安全保障システムの存在は、安保理の権限にかかっています。つまり、最初から合意が難しいと思われるきわめて困難な問題であっても、行動するという安保理の政治的な意志にかかっているのです。ある問題を安保理の議題とすることでかどうかの主たる基準は、当事者が受け入れるかどうかではなく、世界の平和に対する重大な脅威が存在するかどうかです。

ここで、目下、世界の平和を脅かしている4つの問題、本当のリーダーシップと実効的な行動が強く求められている4つの問題について述べさせていただきます。

第1に、イスラエルとパレスチナの紛争です。私たちの多くは、このところ、イスラエルの合法的な安全保障とパレスチナの人道的な必要性を

調和させるよう努力してきました。

しかし、このような限定的な目標はより広い政治的背景から切り離して達成することはできません。私たちは、イスラエルとパレスチナ双方の人々に、そして地域全体に、安全と繁栄をもたらすことができる公正で包括的な解決策の模索に立ち返らなくてはなりません。

最終的な中東和平のビジョンはよく知られています。それは、ずっと以前に安保理の決議242と338において規定されました。特にイスラエル—パレスチナ問題に関しては、決議1397に明確に記されています。それは、土地と平和の交換原則に従い、恐怖と占領を終結させ、イスラエルとパレスチナという2つの国家が互いに確固たる承認された国境を越えることなく隣り合って暮らすというものです。

双方ともこのビジョンを受け入れています。しかしそれに到達するためには、すべての領域で迅速且つ並行的に行動する必要があります。いわゆる「順次」アプローチは失敗しているのです。

昨年5月にワシントンで行われた四者会談で合意されたように、イスラエルの安全を高める手段、パレスチナの経済や政治制度を強化する手段、最終的な和平合意の詳細を煮詰める手段という並行して進めるべき各種の手段の道筋を定めるために、早急に国際的な平和会議を開くことが必要です。一方で、パレスチナの人々の苦しみを軽減するための人道的な手段が強化される必要があります。これは急を要します。

第2に、イラクの首脳部が、国連憲章第7章に基づいて安保理によって

採択された強制的決議を拒否し続けているという問題です。

私は、安保理の決議に従って兵器査察官を戻す必要性をはじめ、多くの問題に関して、イラクと細部にわたる話し合いを行ってきました。

イラクに安保理の決議を遵守させる努力は継続しなければなりません。私は、イラクの首脳部に影響力を持つすべての人々に、兵器査察を受け入れることの絶対的な重要性を彼らに認識させるよう働きかけていただきたいと思います。イラクの大量破壊兵器のすべてが間違いなく破棄されたと世界の人々が確信できるようになるためには、そしてイラクの人々に多くの困難をもたらしている制裁が停止され、最終的に解除されるためには、これが必要不可欠な最初のステップです。

私は、イラクに対して、義務を果たすよう強く要求します — イラク国民のために、そして世界の秩序のために。イラクの抵抗が続くならば、安保理はその責任を遂行しなければなりません。

第3に、国際社会のリーダーである皆さんに対して、アフガニスタンへの関与を続けてくださるよう要請します。

カルザイ大統領の本総会への出席を歓迎し、先週の凶悪な暗殺未遂事件を無事に切り抜けられたことを歓迎する気持ちは皆さんも同じでしょう。この事件は、テロリズムが根づいてしまった国でそれを根絶させるのがいかに難しいかを私たちにはっきりと思い出させました。この国が混迷の淵に沈み、アルカイダの温床となるのを食い止めることができなかったのは、恥かしながら1990年代に国

際社会がアフガニスタンの状況を見過したからです。

今日、アフガニスタンは2つの分野で緊急に手助けを必要としています。まず、政府がアフガニスタン全土を掌握する上で支援が必要です。全土に支配権が及ばなければ、他のすべての事柄が失敗してしまうかもしれません。もう1つは、この国の復興、再建、発展を手助けするために、資金提供者が関与を続けることが必要だということです。そうしなければアフガニスタンの人々は希望を失ってしまいます。私たちは、絶望から暴力が生まれることを知っています。

第4の問題は南アジアです。核兵器を持つ2国間の直接衝突の危機感が近年になく高まっています。現在、状況はやや落ち着いているようですが、まだ危険な状態にあることに変わりありません。根底にある衝突の原因が解決される必要があります。新たな危機が勃発したならば、国際社会には果たすべき役割があるでしょう。しかし私は、両国の指導者たちが解決策を見出す手助けをするのにふさわしい立場にある加盟各国が尽力するのを喜んで承認しますし、心より歓迎します。

ご臨席の皆さん、私の話を終えるに当たり、2年前のミレニウム・サミットにおいて皆さんが決めた公約をもう一度思い出していただきたいと思います。それは、世界の人々に役立つよう「国連をもっと有効な機関にする」ということです。

本日、私はお集まりの方々すべてに対し、この公約に敬意をお払い下さるようお願いいたします。皆さん、これからの時代においては、大きな国であろうと小さな国で

あろうと、世界の利害がまさしく自分たちの国の利害であることを認識しようではありませんか。



1) 9.11テロから1年、ニューヨーク国連本部ビルの前で行われた式典で参列者にメッセージを述べるアナン国連事務総長

2) 世界貿易センタービル跡地（グラウンド・ゼロ）で行われた追悼式典には、約90カ国の首脳、外相らが参加。右からコリン・パウエル米國務長官、マイケル・ブルームバーグニューヨーク市長、アナン国連事務総長、ジャン・クレティエンカナダ首相、小泉純一郎首相

3) 国連安全保障理事会ではテロの犠牲者の冥福を祈って黙とうが捧げられた

4) テロとの闘いのなかで、安保理の果たす中心的役割を強調するアナン国連事務総長

米国での9.11同時多発テロ1周年に寄せて

コフィー・アナン国連事務総長

米国での同時多発テロから1年が経ちました。1年という時が経っても、あの日の恐怖、衝撃、悲しみ、そして、犠牲者の子ども、配偶者、友人、家族への深い同情は、私たちの中から消えていません。あの衝撃は、今でも私たちの心に刻み込まれています。

昨年9月11日、深い悲しみが世界を覆いました。それは、米国の人々との連帯だけでなく、私たちに共通の損失という感覚から生じたものでした。あの日、米国に住むことを選択したというだけの理由で、自国民を失った国々は、90カ国を越えています。きょう、私たちが世界共同体として結束するのは、私たちが世界共同体として攻撃されたからにはほかなりません。

しなければならないこととして、テロ攻撃の原因を究明するための機会は今までも存在し、そして、今後も存在することでしょう。また、当然のこととして、テロ攻撃に対する私たちの対応を話し合う機会も、さらに存在することでしょう。そして、これも当然のこととして、あの日のグローバルな結束を維持する最善の方法を検討する機会も、さらに訪れることでしょう。

しかし、きょうは追憶、そして尊敬のための日です。それは、惨事を避けようとして命を失った人々の損失、そして、その現場に駆けつけて命を落とした人々の犠牲を思い出す日です。それは、世界中から集まり、理由もなく、そしてなす術もなく、危険と死に見舞われた人々の命を思い出す日です。そしてこれはあの日、想像不可能な恐怖の前に、ニューヨークからテヘラン、ベルリン、さらには北京まで、世界中を包み込んだ結束の精神を思い出す日なのです。

9月11日の同時多発テロ以上に、国連の精神と目的を侮辱するものはありません。平和、開発、健康、自由という、私たちが実現を目指すものすべてが、この恐怖によって損なわれました。そして、人命の尊重、正義、寛容、多元主義および民主主義という、私たちの信じるものすべてが、これによって脅かされたのです。世界は力を一つにして、これに打ち勝たなければなりません。

*9月11日に命を失った方々の記憶が、
万人にとってよりよく、より公正で、
より平和な世界の着想を与えてくれますように。*

米国でのテロの攻撃が国連の行動を活性化

国連の活動に関する年次報告書

コフィー・アナン国連事務総長は、国連の活動に関する年次報告書で、1年前の今日アメリカを襲ったテロリストの攻撃が国際的な対テロ行動を活性化させたと述べました。

アナン氏は、テロリストの脅威はなくなさなければならないという固い信念を表明する一方で、テロ対策が人権を侵害しないようにすることが必要だと強調しています。

また、この1年、アフガニスタンをはじめ、テロリズムの温床となった脆弱な国や崩壊した国を再建するという課題に世界が改めて注目することになったとアナン氏は指摘しています。

この報告書の全文は国連広報センターのホームページ (<http://www.unic.or.jp>) で読むことができます。



第57回国連総会議長 ヤン・カバン氏略歴



第57回総会議長に選出されたヤン・カバン (Jan Kavan) 氏は1946年10月17日、外交官であった父の赴任先、ロンドンで生まれました。

カバン氏はプラハのチャールズ大学でジャーナリズムを、ロンドン経済・政治大学院で国際関係論を、レディング大学とオックスフォード大学で歴史と政治を学びました。同氏はまた、米国の大学で政治と歴史の教鞭を執ったほか、非英語圏で幅広い論文の発表を行っています。

1989年10月、プラハに戻った同氏は、政治家としての道を始め、副首相兼外務大臣 (1998～2002年) をはじめとする議会および閣僚のポストを歴任しました。カバン氏は2002年6月、チェコの国民議会議員に選出されました。

カバン氏は、紛争予防と国際テロ対策を含む平和と安全の維持という、国連の最重要課題に特別の関心を寄せていると語りました。同氏によれば、ともに手を携えれば、国連総会の活動を活発化させて結果志向のものとし、現在継続中の国連改革プロセスを効率化し、国連全体の一貫性を高めることができるのです。

国連にスイス連邦の旗を掲げるにあたって

コフィー・アナン 国連事務総長



【左】ニューヨーク国連本部にはためくスイス国旗。自由、名誉、忠誠を表す
【右】第57回国連総会に参加するスイス代表团。中央がカスパー・フィリガー大統領

国連は9月10日に開会した第57回国連総会で、スイスによる国連加盟申請を全会一致で承認しました。これにより、スイスは190番目の加盟国となりました。

本日 (2002年9月10日) は、スイス連邦にとってだけでなく、全世界の国々にとっても記念すべきお祝いの日です。国連加盟諸国の旗の中にスイス国旗の白い十字が誇り高く翻っている様子は、国連の価値と理想を信じるすべての人の心に、そして私の心に、感動をよび起こします。

スイスは多くの面で、国連が追求するものの鮮やかな例を示しています。すなわち、しっかりとした民主主義の伝統の上に築かれた平和な多文化社会なのです。

この国には4つの言語があります。その数は国連公式言語の数より2つ少ないにすぎません。

この国は歴史に深く根ざしています。スイス連邦の起源は、1291年8月1日、3つの州 (カントン) の連合体が生まれたときにさかのぼります。そして、きょう国連に加盟するまで7世紀以上の歴史を歩んできました。

この国は小国でありながら、世界に大きな存在感を示しています。多くの人道活動組織の本拠地であり、民間の経済活動が盛んで、ニューヨーク本部を除いて最大の国連事務所をもっています。

この国は、グローバル化の進む世界に門戸を開くことから利益を得ながら、自分たちの伝統と文化を維持することを学んできました。

スイスはずっと以前から、広い意味での国連ファミリーの活動に積極的かつ寛大に参加してきました。国連が取り組む数々の分野の最前線で、貴重な経験とノウハウを私たちにもたらしてくれています。

本日、正式加盟国となったスイスは、国連のあらゆる活動において発言権を得ることになりました。私としましては、スイスの意見を聞かせていただけることを心から楽しみにしています。

ですから、私は、21世紀最初の新たな加盟国に対してこう歓迎の言葉を告げることにしましょう。Bienvenu, Willkommen, Benvenuti, Bainvegni *と。

*順にフランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語。いずれも「ようこそ」の意。

10月24日は国連デー UNハウスで記念シンポジウムを開催！

10月24日は国連が創設された日です。1945年の創設以来、この日を記念して全世界で「国連デー」を祝う行事が行われており、国連の最も重要な日のひとつです。

東京・渋谷のUNハウス(国連大学本部ビル)では、来たる10月24日、日本全国にある20の国連機関事務所が初めて一堂に会し、記念シンポジウムを開催します。国連の存在価値が今まで以上に注目され、国際協力に対する一人ひとりの理解と参加が必要となっている現在、多くの方々に国連とその幅広い活動に興味をもち、参画していただきたいと考えています。

シンポジウムのテーマは、「ミレニア

ム開発目標に向けて～国連システムと日本の役割～」です。ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)とは、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットにおいて採択された国連ミレニアム宣言を中心とした「開発のための共通の枠組み」です。貧困と飢餓の撲滅、女性の地位向上など、いま世界は2015年までに達成すべき8つの約束に取り組んでいます。

国連デー記念シンポジウムが、いま一度このミレニアム開発目標を再確認し、皆さまにその意義を知っていただく機会になることを願っています。

国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所を開設

国連人口基金 (UNFPA) は2002年9月1日、国連広報センターなど8つの国連関連機関があるUNハウスに東京事務所を開設しました。

トラヤ・アーメド・オベイドUNFPA事務局長は、「UNFPAのトップドナーのひとつで、人口分野の国際的リーダーである日本に事務所を開設できることはUNFPAにとって喜ばしいことである。我々は、東京事務所が日本政府および日本の人々とUNFPAとのパートナーシップの更なる強化に寄与することを期待している」と述べました。初代事務所長には池上清子氏が就任しました。

東京事務所の主要な役割は、UNFPAの任務とUNFPAが取り組んでいる諸問題について日本の人々の関心を高めることであり、それに

よって、政策決定者、報道関係者や国民一般からの支援の増大を図ることです。この目的のため、同事務所は、外務省および関連省庁と密接な連携を図ります。また、UNFPAと協力しながら開発途上国でのリプロダクティブ・ヘルスプロジェクトやアドボカシー(政策提言)活動を行なっている家族計画国際協力財団(ジョイセフ)や、日本とアジアの国会議員と共に活動し、アジア地域の人口調査等を実施するアジア人口・開発協会(APDA)などのNGOとも連携を維持していきます。またUNFPAと日本の国会議員、特に国際人口問題議員懇談会(JPPF)とのパートナーシップ強化に努力します。更に、同事務所は日本及び国際的な報道機関に対し、UNFPAを代表することになります。

国連デー記念シンポジウム

* プログラム *

2002年10月24日(月)

14:00 - 18:00

UNハウス3階

ウ・タント国際会議場

14:00-14:20 オープニング

開会の挨拶 横田洋三 国連大学学長特別顧問、コフィー・アナン 国連事務総長のビデオ・メッセージほか

14:20-15:00 基調講演

「ミレニアム開発目標の実現に向けて～国連の具体的な取り組み～」

- 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長 シャロン・ケイプリング・アラキジャ氏
- 世界銀行副総裁 マッツ・カールソン氏

15:00-16:30 パネル・ディスカッション

「開発目標実現に向けての日本の役割とは」

16:30-17:00 トークと音楽

小室哲哉 国連薬物統制犯罪防止事務所 (ODCCP) 親善大使

17:00-18:00 ティータイム

このシンポジウムに参加ご希望の方は
国連広報センターのホームページを
ご覧のうえ、お申し込みください

UNFPA 東京事務所 連絡先

Address: 〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-70
UNハウス(国連大学ビル)7階

Tel: 03-5467-4684

Fax: 03-5467-8556

E-mail: unfpa@cronos.ocn.ne.jp

<http://www.unfpa.or.jp/>

東京・渋谷のUNギャラリーでは、9月24日に「世界百名山・国連切手」展のオープニング・セレモニーが行われました。

2002年5月に国連の「国際山岳年」記念切手に写真が採用された白川義員氏をはじめ、これまでに国連切手をデザインした日本人アーティストの方々にご参加いただき、新しい展示がスタートしました。参加者（古賀賢治氏、高畑雅一氏、故吉田左源二氏に代わって敷田稔氏）を代表してスピーチを行った白川氏は、日本人の作品が国連切手に採用されることは、日本が国際社会の一員として大変喜ばしいことです、と述べました【この展示は2003年1月10日（金）まで】。



白川氏の山岳写真「世界百名山」シリーズの前でリボン・カットが行われた。左からアジア刑政財団の敷田氏、白川氏、古賀氏、高畑氏



古賀賢治氏のデザインによる国連切手は「国際自然災害軽減の10年」を記念し、1994年5月に発行されました。3点の切手からなるこの記念切手は、主要なテーマの違った局面をそれぞれに描写した作品です。

抽象的に彩色され、エネルギーと運動を象徴する背景と厳粛な地球を枢軸にしたことで、デザインに活動的なエネルギーの動きを与えています。



吉田左源二氏の「鳳凰来儀」は1997年12月、国連切手に採用されました。この絵は国連NGOアジア刑政財団が、国連の50年にわたる犯罪防止の努力を称えて国連に寄贈したもので、現在、国連ウィーン本部の大ホールに平和と正義の象徴として飾られています。

地上に平和が満ちて正義が行われるとき、初めて天井から飛来すると伝えられる霊鳥、鳳凰。人々はこの絵を見て、国連の努力により、一日も早く鳳凰がこの世に飛来することを祈ることでしょう。



高畑雅一氏のデザインによる国連切手は2000年5月に発行されました。この切手は国連ミレニアム行事の一環として作られたもので、同氏のデザインによる「Our World 2000（私たちの世界 2000）」が採用されました。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp